



ゆめ通信

2018.7.1. No.99

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

第18期中部支部セミナー開催

5月18日（金）TKP名駅東口カンファレンスセンター 13階ホール13Dの会場一杯に約90名が集まった参加者を前にして、栗木貢男中部支部長より、これからの不透明な情勢の中で、経営安定を図るためには生産性の向上を先取りすることが勝ち残りには必要との挨拶がなされ、中部支部セミナーが開始されました。

続いて、松村昌雄理事長より、輸入動向推移及び飼料価格の高騰を受けこれからはロスをなくす管理を行い、生産性の向上に向かった経営で乗切って欲しいとの激励の挨拶がなされました。

「人工授精の基礎、分娩率90%以上に向けて」と題して有限会社メンデルジャパン専務取締役蜷川一志氏より、精液の適正な利用は受胎率だけでなく、繁殖成績にも大きな影響を及ぼし、品質管理の徹底された清潔な精液を使用することにより成績の向上が期待できるとの説明がなされ、人工授精の衛生管理として、①自家採取の精液の不衛生な管理、②個別包装の容器を上手に使う人工受精時の衛生管理等の問題点及び対策が示されました。

さらに、現場でのワンポイントアドバイスとして、①陰部の洗浄、②AIバンドの活用、③カテーテルの衛生的な使用が写真を用いて説明されました。

今後の取り組みについて、①自動精液検査システムの導入、②自動パッキングシステムの導入、③恒常的なラボ・精液の細菌検査の導入による更なる品質向上を目的とした中央AIセンター開設が披露されました。

続いて、「事例紹介を踏まえた最近の疾病対策と繁殖成績の向上について」と題して株式会社バリューファーム・コンサルティング代表取締役呉克昌氏より最近の疾病対策と繁殖成績の向上について表、図

と写真を示し詳細に解説されました。

最近の疾病対策については、国内養豚の成功のカギは①さまざまな汚染ルートを図式化したバイオセキュリティ・チェーンを例にバイオセキュリティの徹底が重要な事、②母豚300頭規模のスリーセブンシステムを例に、黄体ホルモンを利用した切り替えのテクニック等、グループシステムを取り入れた適正なビッグフロー、③早期治療をめざし、獣医師と連携のもとに行う抗菌剤の使用削減にあることが解説されました。また、豚の呼吸器病（PRDC）について、マイコプラズマ肺炎・豚胸膜肺炎（APP）等重要な疾病の農場での対策事例が具体的に示され、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）撲滅の重要性が解説されました。

繁殖成績の向上については、良質な離乳子豚の最低コストでの生産を目的に、①授乳期用飼料のアミノ酸リジンとエネルギーのレベルを配慮した栄養強化と飽食させること、②候補豚、妊娠豚の適正なBCS管理、③適正な子豚の乾燥・保温・初乳管理が重要であることが図・写真・グラフを使い説明されました。

まとめとして、疾病対策・繁殖成績の向上のカギは、獣医師と連携しながら仕事の単純化と集中化を図ることであるとのメッセージを残し講演が終了しました。

中部支部セミナー開始前に組合員の意見を聞き組合運営に活かすことを目的とした理事長と組合員による意見交換会が設けられ、離乳時の発育、分娩舎の飼料給与等の技術的な問題点の意見交換やスノコの調達についての要望、未経産カテーテルの包装単位の問題、精液の保存期間の問題等多岐に亘る活発な意見交換会となりました。（山田）



PigINFOから得られる農場の生産成績における最近の傾向

(国研)農研機構 食農ビジネス推進センター
山根逸郎、山崎尚則

農研機構では、日本養豚開業獣医師協会（JASV）との共同研究で、ベンチマーキングシステム（PigINFO）を開発してきました。現在（2018年5月）PigINFOには173戸の農場が参加しており、3ヶ月おき（毎年1月末・4月末・7月末・10月末）にデータを提出して頂き、四半期単位及び過去1年単位での解析結果の冊子を農場ごとにお返ししています。また希望する農場にはインターネット（Web）上でも成績結果を閲覧することができるようになっております。

毎年5月にJASVが東京にてベンチマーキングセミナーを開催しています。このセミナーにおいては、前年の一年間の成績の推移を紹介するとともに、特定の指標（粗利益/母豚/年、出荷枝肉重量/母豚/年、離乳子豚数/母豚/年、農場枝肉飼料要求率、離乳後事故率）の上位成績の農場の表彰を行っています。また上位成績の農場の方に、優良成績となった背景や要因などについてお話して頂いております。本年5月10日に開催されたベンチマーキングセミナーで私がお話した内容のうち、2010年から昨年（2017

年）までの8年間における生産成績の推移の一部を紹介致します。

まず、販売額（/肉豚）（図1）は、2016年より大きく上昇しています。特に、2017年3期（7～9月）ではこの8年間で最も高い数値となっています。一方、飼料費（/肉豚）（図2）は、最も高かった2013年4期（10～12月）より下降しているものの、下降幅については、2017年はやや小さくなっています。肉豚当たりの販売額の増加と飼料費の減少により、粗利益（/肉豚）は2016年より上昇しました（図3）。

枝肉重量（/頭）は、中央値を見ると2010年から2015年までは上昇傾向が見られますが、2016年と2017年はほぼ横ばいで推移しています（図4）。また、離乳後事故率の中央値は、2010年から緩やかに増加していることが読み取れます（図5）。慢性疾病の発生等による損耗は大きく、疾病への対策は現在でも養豚現場においての重要な課題と言えるでしょう。飼料の効率を押し量る農場枝肉飼料要求率は、この8年間でわずかな減少が認められました（図6）。今

図1 販売額（/肉豚）（千円）

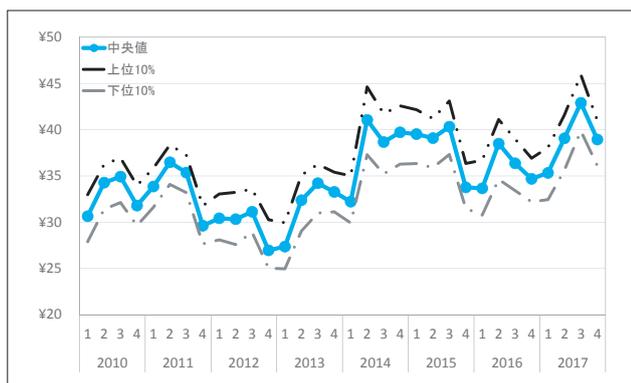


図2 飼料費（/肉豚）（千円）

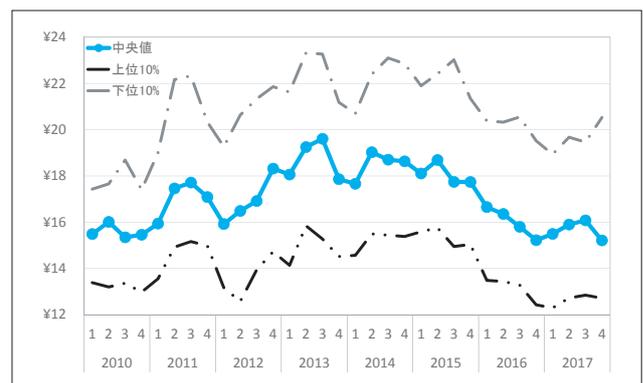


図3 粗利益（/肉豚）（千円）

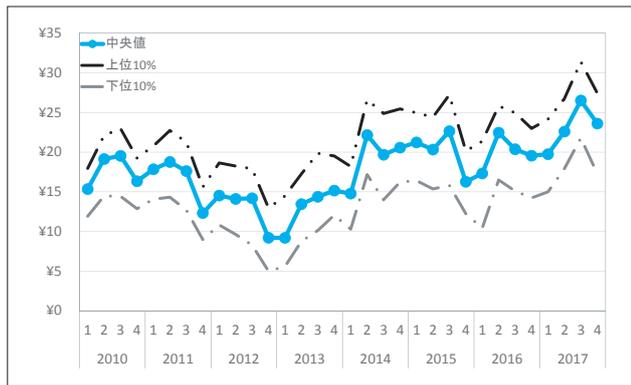


図4 枝肉重量（/頭）

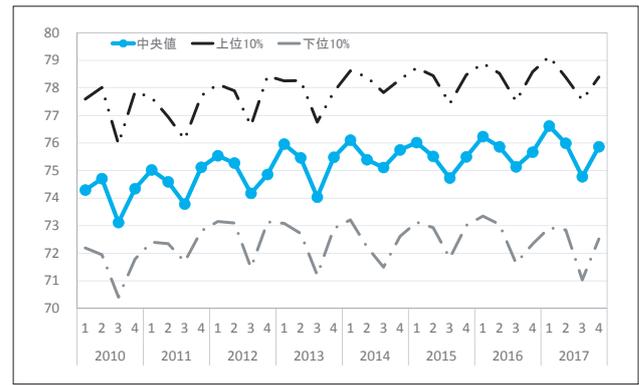


図5 離乳後事故率

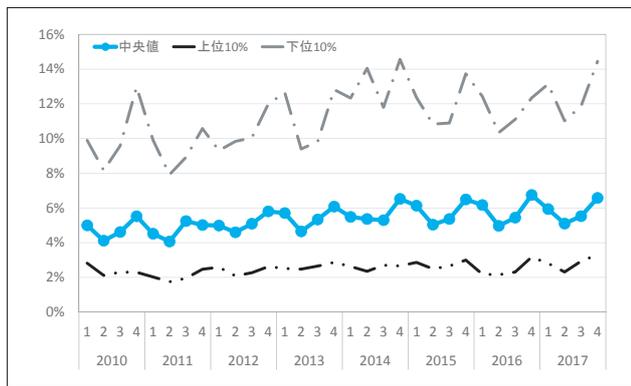
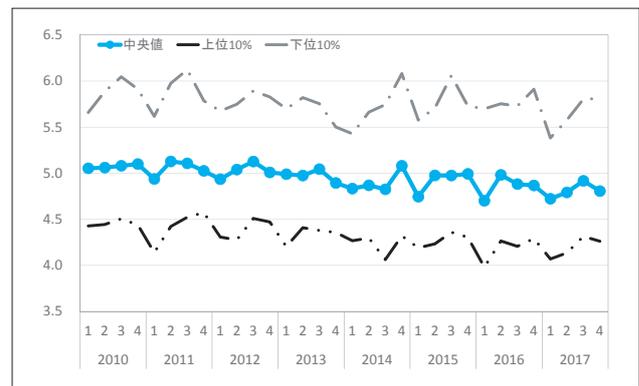


図6 農場枝肉飼料要求率



後、さらなる改善が期待される指標の一つと言えるでしょう。

農場が管理することが難しい枝肉価格の増加と飼料価格の減少が、2017年の粗利益の増加の主な要因でした。今後は農場の努力によって生産指標を改善し、粗利益の上昇を目指したいものです。

さて、畜産分野における薬剤耐性菌のリスクが近年注目されており、家畜生産現場での抗菌剤の使用量の低減が強く求められています。そのためにはまず、農場ごとの抗菌剤の使用量の正確な把握が不可欠です。筆者らは、農林水産省の委託プロジェクト研究の中で、JASVの協力の上、農場における抗菌剤の使用量に関するベンチマーキングシステム（PigINFO Bio）の運用を2017年から開始しています。PigINFO Bioでは、農場が購入した抗菌剤のデータをJASVの獣医師を介して収集し、この生データから抗菌剤の系統や種類、さらに投与経路（注射や経口）別に出荷豚当たりの使用量を農場ごとに算出し、この値そのものと、その値の参画農場（2016年は139戸

が参加）の中での位置づけに関する情報を獣医師を介して農場に還元しています。これらの情報が、各農場で活用され、抗菌剤使用量の削減に向けた指標の一つとなることが期待されます。

ベンチマーキングとは、成績を同業他社と比較して、経営改善に活かすことです。PigINFOを活用することにより、経営を改善された農場は多々あります。まだ、参加されていない組合員の方々におかれましても、参加をご検討頂けますようお願い申し上げます。

PigINFOへの参加やお問い合わせについては、下記を参照して下さい。

日本養豚開業獣医師協会事務局（担当：北川）
 TEL 046-290-5630 FAX 046-290-5631
 受付時間（土・日・祝祭日・年末年始を除く）
 9：00～17：00
 mail pig.jasv@r7.dion.ne.jp
 URL <http://www.e-jasv.com/>


 Dr. 伊東の
 ランダム
 シンキング

第七回

日本の農業・減反政策を考える

伊東 正吾

今回は、養豚とは異なる農業政策の堅い話になってしまい恐縮ですが、私の思いを述べたいと思いますので、少しだけおつき合いをお願いします。

森友学園の籠池氏とは思想が異なりますが、私は不肖であるものの農家の長男であり、わが国の歴史を振り返れば日本は「瑞穂の国」であると実感していましたし、瑞穂の国という言葉には愛着を持っていました。その中で、約半世紀前に国策として打ち出された「コメの減反政策」に対し、私自身は忸怩たる思いで受け止めていました。そのような私にとって、5年ほど前から政府が検討を開始していたコメの減反政策の廃止が今年に入り確定・公表されたことは大きな出来事であり、ひとこと苦言を呈さないではられません。

わが国の農業政策における保守本流はコメ政策であると思いますが、それを揺るがす政策の一つに「減反政策」がありました。こう書き始めると、今まで養豚産業に深く関わってきた私ですから減反政策の中の飼料米に関することかと思われるかも知れませんが、そうではなく、減反政策そのものに対して当初から違和感を持っていたことが根本です。

戦後の復興期における農家の長男で跡取りであった私にとって、学業よりも家の継承が重要であり、小さい頃は学校の宿題や勉強よりも田畑に出て手伝うことが最優先でした。春先の田起こしは私の仕事であり、田植えは親戚が協力して行う一大イベントでした。収穫期は大変忙しく、時には月夜の下で「はざかけ」を母親と2人で行ったこともあり、農業と田畑管理の重要性や一粒のコメの貴重さは、いやというほど教え込まれ身に染みて理解していました。ところが、私が大学に進学した頃に国策としてコメ

の生産調整（減反政策）が始まったことは私には意味不明な方針でした。コメ余りや備蓄米の保管費用の膨大化対策が必要なことなど単純なことは理解できますが、減反政策自体は本質的な解決ではないと感じ、極端に言えば、これは国を亡ぼす政策だと感じました。なぜならば、私は小さい時から「水田を1年耕作しないで放置すると、元に回復させるまでに3年ほどかかる」と教え込まれ、また、コメ作り将来像が描けない農業者は耕作意欲をそがれてしまい、最終的には後継者が育たなくなることは十分想定できたからです。そして、このような政策を決定してしまう政府や農水省（当時は農林省）の人間は、本当に農業の実際を理解しているのだろうか、強く疑念の思いを抱きました。

時代の変遷に伴い食生活は変化して当然ですが、わが国の基本は米食文化であることは言うまでもなく、現在の飽食環境に慣れ疑問を持たない世代の増加と外国の動向に流されやすいわが国民性は、肉食文化の欧米で健康食品として米食が注目され始めると、また態度を変えることも想定されます。

食糧問題を論ずる際、裕福になってきた状況を背景に海外からの安い食材を購入することこそ合理的であり正しい選択のような、極めて短絡的な論調をたびたび耳にしますが、コメ作りや農業政策は、そのような表面的な問題ではないことを第一に理解する必要があります。

私は、日本国の気象条件や地理的制約、さらには自然豊かな国土を守るためにも、従来から技術開発を進め、社会整備を行ってきた稲作農業形態を重視すべきだと思っていました。日本という狭い国土と狭い耕地、そして明瞭な四季があり降水量も多い国

土での栽培に適し、国民の食生活を着実に維持できる作目、その栽培のために農地整備や機器開発などに多額の投資を行い着実な成果を得てきた歴史と成果、そしてあまり注視されていない事柄として、山の「緑のダム」と同じく、水田を維持することで平地でのダム効果を確保でき、さらに水が水田を通過するとその浄化効果があることや、植物の光合成や呼吸作用により空気の浄化にも貢献していることなどを鑑みると、単なる食糧生産ではないということは一目瞭然です。そのような意味合いから、「瑞穂の国」を再認識すべきだと考えています。

コメが生産過剰であれば、世界的には食糧難の地域が相変わらず多いことからその緊急的直接的支援に回すとともに、将来の安定を確保するために栽培技術の総合援助などを何故考えなかったのか。また、米食文化が海外に広まることにより炊飯器などの関連する家電製品の輸出などに波及効果も想定され、わが国工業製品の輸出にも有効であり、多方面で将来の国益への発展もあったのではないかと。最終的には、支援先での灌漑事業や発電事業構築などにより大きな経済的支援策にもなったのではないかと。などと思わずにはいられません。

物事を現状の数値分析から整理することは当然必要ですが、その実情をどのような方向性で解決または発展させるか思考する際に、狭い範囲だけで検討してしまうと、単なる生産調整・減反政策というような方策に行き着いてしまうのではないかと危惧し

ています。

政策決定の過程で考慮されるはずの高度で複雑な諸事情は必ず存在することは理解できますが、生産現場に関わる者は皆、毎年の田植え時期に代掻きや田植えを行う水田の隣に仲間外れとなった寂しそうな田（写真）に対して謝罪の思いを持ち、最終的には苦労して水田を開発してくれた先祖たちに懺悔の念を抱いているはずで

す。半世紀前の農政決定時には、減反に伴い奨励作物や補助金の手当てにより農地が荒廃することはなく農地の維持には問題ないとしたのでしょうか、それは非耕作者側の勝手な言い分であり現実的ではありません。最終的に農地が荒廃することこそ国家的損失です。

私の家の近くには、写真のように減反政策が中止となった今年でも水田に復活されず、雑草ばかりか灌木まで生い茂っている場所が各地で見られますし、すでに農地から宅地や工場などに景色が変わってしまった場所も多くあり、極めて残念です。

中山間の水田ばかりでなく平地の水田も荒廃・減少することは、すなわち水田農業の衰退につながります。その根本要因はいくつかありますが、第一に農業者のモチベーションが下がり離農することから始まると思います。減反政策を教訓にし、養豚産業ではこのような事態に陥らないように、長期展望を行政も含めた関係者全員が持ち、将来を見越した計画的な対応をする必要があると強く感じています。



写真1



写真2



写真3

写真1は、ほぼ平地の水田風景で、田植えから半月経過した様子で、手前は転作のソバ畑。
写真2は、同じ地域で水田整備により田の区画と水路が改修されたが、水田として使われず無耕作か牧草や麦を栽培。
写真3は、先祖が中山間地を開拓し整備した水田だが水田利用は少しだけで、耕作放棄地では雑草どころか灌木まで生えており、今後の農地利用の見込みは極めて低いと想定される。

馴致の基本②

有限会社サミットベテリナリーサービス
石関 紗代子

はじめに

前回は記載しましたが、繁殖候補豚の導入時に行う馴致、哺乳子豚の大腸菌性下痢予防のために行う馴致、そして、豚流行性下痢（PED）など特定の疾病に対する免疫付与のために行う馴致などがあり、それぞれ対象となる豚も方法も異なります。

このコーナーでは、“外部導入した能力の高い種豚”を自農場で活かすための管理方法の一つとして、馴致を解説することを目的としていますので、「繁殖候補豚の導入時に行う馴致」に焦点を当てて解説します。中でも、自農場が豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）陽性農場の場合には、PRRSに対する免疫付与が、繁殖候補豚に対する馴致の大きな目的のひとつになりますので、本コーナーでは繁殖候補豚に対するPRRS対策の馴致（PRRS馴致）を例として取り上げ、その具体的な方法について触れていきたいと思えます。

繁殖候補豚に対する導入時のPRRS馴致の実践

PRRSをコントロールする上でまず重要なことは、繁殖豚群の免疫を安定化させることです。そのために、馴致によって一度PRRSウイルス（ワクチン株または、農場に存在している野外株）に感染させ回復させて、免疫を獲得した豚だけを既存の繁殖豚群に繰り入れていきます。そうすることにより、既存の繁殖豚群が、免疫獲得済みの豚で揃えられて（置き換えられて）いくことになり、免疫安定化が達成されます。目的の詳細については前回の記事を参照してください。

1. 現在の疾病状況の把握

最初に、モニタリング検査（抗体検査を中心に）を実施して現在の自農場の疾病状況を確認しましょう。モニタリング検査は疾病状況に応じて、年に2～4回の実施が推奨されます。そしてその結果を踏まえて、目的、つまりどの疾病をターゲットにし

て繁殖候補豚に対する馴致（ワクチンも含む）を行うか？を検討します。

2. 馴致の計画

次に具体的な計画を立てます。モニタリング検査の結果を踏まえた目的に沿って、馴致（ワクチンを含む）の具体的な方法を計画します。この計画のステップが最も重要です。

①施設および外部導入豚の要件：馴致（ウイルスの感染～回復）は、隔離施設で行うことが原則です。PRRSウイルス感染後の回復期間はウイルスを排泄している可能性が高いためです。次の②で述べる回復期間を考慮した収容頭数のあることが好ましいです。また、外部から繁殖候補豚を導入する際には、自農場がPRRS陽性か？陰性か？にかかわらず、PRRS陰性の繁殖候補豚を導入することが必須条件です。PRRSウイルスには多様性があり、仮にその豚が他農場でPRRSウイルス株に感染して免疫を持っていたとしても、自農場のPRRSウイルス株に対して同様に防御することはできません。むしろ逆に他農場のPRRSウイルス自体を自農場に持ち込んでしまう危険があります。実際に筆者も、PRRS陽性農場に別のPRRSウイルス株が侵入し、大きな被害が出たケースを経験しています。陽性だから安心というわけでは全くないのです。

②回復期間と導入日齢：回復期間は、2ヵ月を確保することが推奨されます。（ただし、肉豚で3ヵ月間PRRSウイルスを排泄したという報告もあり、長い方がより良いことは間違いありません。）繁殖候補豚の初回交配までに十分な回復期間を確保できるように、導入のタイミングと日齢を決める必要があります。一般的には、繁殖候補豚の初回交配日齢として7～8ヵ月齢が推奨されていますので、遅くとも5ヵ月齢までには導入しておくべきでしょう。

③方法：PRRS馴致は、PRRSウイルスに意図的に感染させ、管理下で回復させることで免疫を付与することが目的ですが、その「感染」をどのように起こすかという部分については、専門知識を持った管理獣医師とともに検討する必要があります。PRRS馴致の場合には、市販の生ワクチンを利用するか？農場由来の材料を使うか？という、主に2つの選択肢があります。これらを併用することも有効で、実際に併用している農場も多くあります。

市販の生ワクチンは、規定量を投与することでPRRSウイルスのワクチン株に感染させることができます。初回交配までに2回投与することが推奨されます。

一方、農場由来の材料を使ってPRRSウイルス野外株（自農場の株）に感染させる方法として、1週間程度、発症豚と同居させる方法や、PRRSウイルスを含む農場由来の材料を与える方法などがあります。

④メリットデメリットの確認：それぞれの馴致方法について、メリットとデメリットをあらかじめ確認し、共有しておきましょう。

例えば、市販ワクチンを利用する場合には、感染時期が明確で安全性が高く、ウイルス排泄期間も短い、というメリットがある一方で、自農場に存在する野外株との交差免疫（防御効果）の程度については不明確であるというデメリットがあります。

また、自農場の材料を用いて野外株に感染させる方法では、確実に自農場のPRRSウイルス株の免疫を付与することができるというメリットがある一方で、対象豚が体調を崩す可能性や、感染源（同居させる豚や与える材料）に実際にPRRSウイルスが含まれているかどうか不確かであることなどがデメリットとして挙げられます。PRRSウイルスの有無以外にも、他の病原体の存在も考慮しなければいけないため、これらの確認方法を含めて獣医師とともに計画を立てる必要があります。

3. 実施

農場の状況に合わせて馴致計画を立てたら、実行です。隔離施設に繁殖候補豚を導入し、1週間程度の健康観察を行った後、問題が無ければ馴致を開始しましょう。もしも実施期間中に対象豚が体調を崩した場合には、馴致を中止し獣医師に相談して必要な治療を行きましょう。

4. 回復後の効果確認検査

馴致の効果判定のために、回復期間を経過した後、既存の母豚群に繰り入れる前に検査（血液または口腔液によるELISA抗体検査と、PCR検査）を行いましょ。そして、ELISA抗体価が陽性、且つPRRS・PCRが陰性であることを確認します。ただし、オーエスキー病（AD）のELISA抗体検査とは異なり、PRRSのELISA抗体検査では、その抗体がワクチン株と野外株、どちらの感染によるものなのかは区別できません。

ELISA抗体価が陰性であれば、馴致がうまくいっていなかった可能性もありますので、馴致方法の再検討が必要です。また、PCRが陽性であればまだウイルスを排泄しているということですので、繰上げを延期して回復期間を延長し、再検査でPCRが陰性になってから繰り上げるようにしましょう。

5. 検証

上手くいかなかった場合には方法を変える柔軟性が必要です。PRRS馴致には今のところ、どの農場でもこの方法を行えば必ず成功する、という方法は残念ながらありません。農場ごとに疾病状況も、豚舎設備も、周辺の養豚場の状況も、そしてPRRSウイルス株も異なるためです。

そして、4.でお話した馴致後の効果確認検査の結果だけでなく、繁殖豚群全体での検査（母豚および子豚の検査を組み合わせ評価）を実施して繁殖豚群の免疫安定化状態を確認する必要があります。繁殖豚群の免疫を安定化させることがPRRS馴致の最終目的だからです。もしも最終的にうまくいっていない場合には、馴致の方法も、見直すべき項目のひとつになります。

おわりに

馴致とその確認検査を実施することで、導入に伴って心配される疾病リスクを最小限に抑えることができます。つまり、衛生レベルが高い農場から豚を導入した場合にも、自農場で十分に活躍してもらうための成功のカギを握る技術が、馴致であるといえるでしょう。

最新情報と専門知識を持った獣医師とともに、農場の状況に応じた計画を立てて、検証しながら実施していきましょう。

「小学3年生が書いた物語に嫉妬と敬意」



森島 稲子

はじめまして。私はある養豚場の従業員として働いている森島稲子（もりはた いなご）と申します。今回は私が自費出版した絵本「子ぶたのいのち」を紹介する機会を与えていただき、ありがとうございます。

今回「ゆめ通信」に掲載される事になった経緯をお話しします。まず「子ぶたのいのち」の自費出版による絵本化に伴い、農場主催で絵本出版記念パーティーをしていただき、その時にご出席下さった豚事協の東野さんから「ゆめ通信に載せてみませんか？」とお声掛けをいただいたのが掲載に至った経緯です。

「子ぶたのいのち」を知ったのは、稲吉弘之前豚事協理事長の自叙伝「私の養豚人生」との出会いからでした。その中にお孫さんの稲吉美咲ちゃん（当時小学3年生）が夏休みの宿題で書いた「子ぶたのいのち」という題の詩が掲載されていました。稲吉前理事長の本文を読む前に「子ぶたのいのち」だけを先行して読み、美咲ちゃんと稲吉家の方に「絵本にしてみませんか？」とお声掛けしたことを今でも覚えています。

次に私が「子ぶたのいのち」を絵本にしようと思った熱意について書こうと思います。今、勤めている会社の入社試験でこんな問いがありました。「あなたは養豚場に勤めることになりました。そのことに

ついて家族や周りの人に自慢できること、誇りに思えることがあるとすればどんな事ですか？また、あなた自身養豚業という仕事にどんな姿勢で取り組みたいですか？希望や想像なども含めてかまいませんので出来るだけ沢山書いてください。」私はこの問いの最後に「私自身が食べる事について感じた事（食として育てられている命の大切さ）などを少しでも子供達（生きていく人達）に伝え、考えて貰えたらいいなと思っています」と記述しました。そして、入社から3年後、美咲ちゃんが書いた「子ぶたのいのち」と出会い、趣味である絵を活かして絵本にする許可を頂きました。“食”と“いのち”の大切さについて少しでも多くの人に私の思いが伝われば、また、考えるきっかけになってもらえればと思い、美咲ちゃんの物語の力を借りて絵本出版に至りました。

小学3年生が書いた「子ぶたのいのち」は、私には決して書くことの出来ないストーリーで嫉妬さえおぼえました。33歳になった私でも、“ぶた”“いのち”“食”について考えさせられる良いストーリーだと思います。

最後に、絵本製作に協力して下さいました美咲ちゃん・稲吉家・会社の方々・農場で飼われているブタさん、そして、この「子ぶたのいのち」を取り上げて下さった豚事協の東野さん、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

事務局より

自衛隊に4年間入隊後、原作付の漫画家を目指し上京するも現実は厳しく、夢を諦め帰郷して農場の職に就いたという異色の経歴をもつ森島さん。愛嬌があり優しい雰囲気のある森島さんですが、雇用主曰く「自衛隊に所属していただいただけあって根性がある！」そう。そんな森島さんの思いの詰まった絵本が出来ました。当時小学3年生だった美咲ちゃんが書いた子供らしくとてもかわいい、そして命について改めて考えさせられる詩はもちろんのこと、農場の従業員だからこそ描ける細かな描写も見所で、食育にもお勧めの絵本だと思います。是非お子さん、お孫さんに読み聞かせをされたらいかがでしょうか。

消費税の軽減税率制度に向けての準備は進めていますか。

～平成31年（2019年）10月から軽減税率制度が実施されます～

農林水産省 経営局 総務課調整室

1 消費税の軽減税率制度

平成31年（2019年）10月から消費税率が10%に引き上げられることに伴い、低所得者への配慮として、飲食料品（外食・酒類を除く）と新聞については、税率を8%に据え置く「軽減税率制度」が実施されます。

軽減税率の対象となる飲食料品とは、「人の飲用又は食用に供されるもの」をいいます。軽減税率が適用されるか否かの判定は、「売り手」である事業者が「販売時点」で行うこととなります。食肉の場合、一般に生体→枝肉→部分肉→精肉として流通しますが、生体（生きた家畜）は、その販売の時点で人の食用に供されるものでないため、「食品」に該当せず、枝肉から人の食用に供されるものとして、軽減税率の対象となります。なお、肥育のために必要な飼料や一般資材などは、標準税率となります。

軽減税率制度の実施後は、正しい税額が計算できるよう日々の業務で軽減税率対象品目の売上げや仕入れを確認し、売上げと仕入れを税率ごとに区分して帳簿に記帳するなどの対応が必要となります。

2 仕入税額控除のために必要な請求書等

課税事業者の方は、仕入税額控除のために区分経理に必要な事項を記載した帳簿及び請求書等の保存が必要となります。平成31年（2019年）10月から平成35年（2023年）9月までは、区分記載請求書等保存方式、平成35年（2023年）10月からは適格請求書等保存方式（いわゆるインボイス制度）が導入されます。

区分記載請求書等保存方式では、現行の請求書の記載事項に加え、①軽減税率の対象品目である旨、②税率ごとに合計した対価の額（税込）を記載した請求書の保存が必要となります。なお、免税事業者も区分記載請求書等を交付することができ、免税事

業者からも仕入税額控除ができることとなっています。

インボイス制度導入後、適格請求書を交付できる事業者は、税務署長に申請して登録を受けた課税事業者である適格請求書発行事業者のみとなります。適格請求書とは、「売り手が買い手に対し正確な適用税率や消費税額等を伝えるための手段」です。適格請求書の記載事項には、区分記載請求書等の記載事項に①登録番号、②税率ごとに区分した税抜価額又は税込価額の合計額及び適用税率、③税率ごとの消費税額等を追加する必要があります。

軽減税率制度の実施から4年間は、区分記載請求書等保存方式で仕入税額控除ができますが、事業者の中には、インボイス制度を見越して準備を進める方もおられると思います。

3 適格請求書発行事業者登録

適格請求書を発行できる事業者になるためには、平成33年（2021年）10月以降、税務署長に「登録申請書」を提出し、登録を受ける必要があります。インボイス制度が導入される平成35年（2023年）10月から登録を受けるためには、原則として平成35年（2023年）3月まで登録申請書を提出する必要がありますので注意して下さい。

4 最後に

軽減税率制度の実施まであと1年3月を切りました。事業者の皆様には、事業者支援措置（補助事業）も活用しながら計画的な準備を進めていただくようよろしくお願いいたします。

■問い合わせ先

農林水産省 経営局 総務課調整室

TEL 03-3501-1384

JASVベンチマーキングセミナー 2017 開催

5月10日に東京都内に於いて「JASVベンチマーキングセミナー 2017」が開催されました。2016年1月～12月間のベンチマーキング解析結果を元に、下記部門での上位三者（農場枝肉FCR部門（配合飼料）に関しては、最優秀賞のみ）および各部門で成績が大きく改善された方を部門毎に「Jump Up賞」としてJASVが表彰し、豚事協から副賞として賞金を授与

しました。

全受賞者21農場のうち15農場が豚事協の組合員で、全体の7割を占め、有限会社マルミファームが5年連続「母豚1頭当たり粗利益部門最優秀賞」を受賞しました。その成績は驚くことに前年の自身の成績を10万円以上も上回り、909,677円でした。

各部門の最優秀賞は下記の通りです。 (東野)

- ・母豚1頭当たり粗利益部門：有限会社マルミファーム（組合員・愛知県）
- ・母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門：有限会社マルミファーム（組合員・愛知県）
- ・母豚1頭当たり離乳子豚数部門：有限会社岩徹養豚（組合員・青森県）
- ・農場枝肉FCR部門：有限会社大西海ファーム（長野県）
- ・農場枝肉FCR部門（配合飼料）：有限会社中多寄農場 白山農場（組合員・北海道）
- ・離乳後事故率部門：有限会社高尾牧場（組合員・兵庫県）

豚事協の年間行事

理事会

第1回	平成30年1月19日（金）（東京）
第2回	平成30年2月16日（金）（東京）
第3回	平成30年4月20日（金）（東京）
第4回	平成30年7月20日（金）（東京）
第5回	平成30年10月19日（金）（東京）

支部会

中部支部	平成30年5月18日（金）（名古屋）
関東支部	平成30年6月15日（金）（東京）
北海道支部	平成30年7月6日（金）（札幌）
東北支部	平成30年8月24日（金）（仙台）
中四国支部	平成30年9月21日（金）（松山）
九州支部	平成30年10月12日（金）（熊本）
沖縄支部	平成30年11月22日（金）（那覇）

女性部

第10回女性部セミナー	平成30年7月2日（月）～3日（火）（東京）
-------------	------------------------

その他

海外視察研修	平成30年11月10日～17日（オランダ・ドイツ）
--------	---------------------------

※青字は平成30年7月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

編集後記

洋菓子は沢山の種類があります。フィナンシェ、チョコ、ケーキ、クッキー。最近ではコンビニでも、上質なスイーツが所狭しと並び、いつでも食べる事ができる身近な存在です。いつ食べてもおいしい洋菓子ですが、「お菓子の一番おいしい時間」を考えながら食べている方は少ないのではないかと思います。

とある老舗洋菓子店のベテランパティシエの方から、お菓子のもっともおいしく食べられる時間を教えて頂きながら、お菓子を比べるという、夢のような企画に参加してきました。

例えばフィナンシェは、デパートなどでは長期間もつように真空パックに入れられ、乾燥剤まで入って売られています。とても美味しいです。しかし、出来立てフィナンシェ（焼いてから1時間）は、売られている物のおいしさとは別次元。生地のサクサクふんわり感、鼻に抜けるパターの香り。なんておいしいでしょう！しかし、なんでも作り立てがおいしいとは限らず、フランボワーズなどは作ってすぐに凍らせ、2日後に解凍したものがもっとも美味しいとの事です。

最後に、作って30分しか「もっとも美味しい時間」がもたないという、ミルフィユ（ミルフィーユではないそうです）を、パティシエ自らの前で作った物を頂きました。寸分たがわぬ包丁さばきにも驚かされましたが、パイはサクサク、カスタードは程よい甘さ、全体的にバランスのとれた非常においしいミルフィユでした。

洋菓子にも旬がある。これからはそういう事も意識しつつスイーツを堪能したいです。（久）